

ニューズレター 経済教育学会

2015. MAY. No.23

第31回全国大会のご案内・・・1～3 拡大理事会議事録・・・4 春季研究集会のご報告・・・5

経済教育 情報クリップ・・・6～7 会費納入のお願い・・・10

2015 年度全国大会 東京で開催！ 2015 年 9 月 26 日（土）～27 日（日）／会場：日本体育大学 大会実行委員長 猪瀬 武則（日本体育大学）

ちょうど 10 年前に、本州北端の国立大学法人で、全国大会を開催しました。12 月開催の浅慮。雪に見舞われました。それにもかかわらず、会場は真摯な討論で熱気に包まれたことを思い出します。テーマは、「経済教育の今を問うー目標・内容・方法の再構築をめざして」。経済学的な考え方を身につけ、合理的な意思決定を行える自立した市民を育てることの大切さを強調する一方で、現実の経済問題と切り結び、より多元的で開放的な経済教育のありかたを模索する必要があるとの問題提起がなされたのです。

期せずして昨年の大会以来、経済学の内容を巡る参照基準問題によって、「目標・内容」が再び問われています。もちろん、「教育」であれば、それらが繰り返されるのは当然のことです。ただし、それが「だれのために」「なんのために」なされなくてはならないのか、これは確認しなくてはなりません。それは、経済学を生業とする人々のためなのか、広く、一般の人々（庶民や大衆や民衆と置き換えようと）への問いかけなのか。

だれのために、なんのために経済教育は行われるのか。経済学的前提が、功利主義であると言えば、「功利的＝打算的」と誤認する方はいないでしょう。しかし、功利主義的前提が、「最大多数の最大幸福」という目標だとすれば、ただちにロールズ的な異論・反論がなされるはず。今大会のテーマに内包される「経済と倫理」では、単に効率と公正、幸福と正義という図式にまつわる空中戦ではなく、格差や税率、ベーシックインカムや負の所得税など具体的な課題に焦点を合わせて、論議を深めたいと思います。



第 31 回全国大会

全体テーマ：「だれのために、なんのために—経済と倫理の接点を探る」

<日時> 9 月 26 日（土）午後 1 時～9 月 27 日（日）午後 3 時

<会場> 日本体育大学 世田谷キャンパス

プログラム(暫定)

第1日目(9月26日・土曜日)

- 11時～12時30分 理事会
- 13時～16時45分 基調講演・シンポジウム
- 17時～17時45分 学会総会
- 18時～19時30分 懇親会(会費 3500 円を予定)

第2日目(9月27日・日曜日)

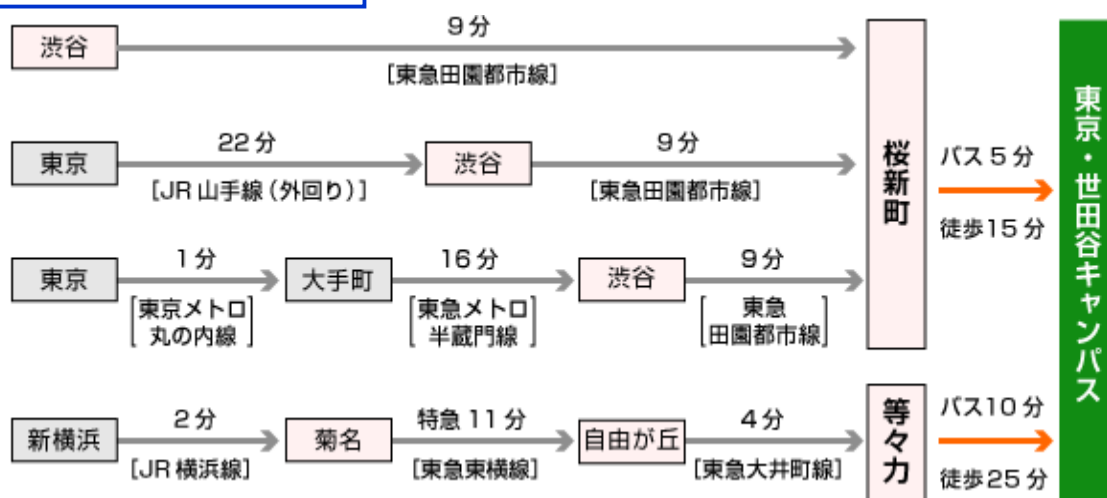
- 9時30分～12時 分科会報告
- 12時～13時 理事会
- 13時～15時 分科会報告



※詳細については、2015年9月上旬にプログラム等を掲載した大会の案内をお送りします

日本体育大学・世田谷キャンパスのアクセス

最寄り駅は桜新町駅・等々力駅



最寄り駅からの行き方

1. 東急田園都市線・桜新町駅から行く場合

…徒歩 15 分。または東急バス「黒07 系統 目黒駅行き・都立大学行き」(のりば2)か「都立01 系統 都立大学駅北口行」(のりば3)に乗り、7、8分。「日本体育大学前」にて下車

2. 東急大井町線・等々力駅から行く場合

…徒歩 25 分。または東急バス「等12、用06 系統 成城学園前駅行き」(のりば1)に乗り、「日本体育大学前」にて下車

※恵比寿駅(山手線で渋谷の一つ前)からも、東急バス「恵 32 用賀駅行き」で 25 分程度。歩かずに済みます

第31回全国大会の自由論題報告を募集します

9月27日(日)に、自由論題の分科会を開きます。報告応募者は、下記の要領で手続きをお願いします。

1) 経済教育学会のホームページ <http://www.ecoedu.jp> から、報告者氏名・所属(複数の場合は全員)、連絡先(代表者のみ、郵便番号、住所、電話番号、ファックス番号、電子メールアドレス、携帯電話等の緊急連絡先)、報告論題、報告要旨(300字程度)を入力し、2015年7月10日(金)までにお送りください。9月27日(日)の分科会とかかわり、報告不可能な時間帯がある場合は、お知らせください。

2) 報告の採否は、7月25日(土)に開催される理事会で決定し、7月31日(金)までに電子メールにてご連絡します。報告申し込みが多数にのぼる場合、次回の全国大会または春季研究集会でのご報告をお願いする場合があります。

3) 報告が採択された方には、報告要旨の原稿(40字×35行、2ページ以内)を作成し、電子メールの添付ファイルにて、8月21日(金)までに株式会社サルト 経済教育学会担当 E-Mail: office@ecoedu.jp までお送りください。これを素材に「報告要旨集」を作成します。原稿の書式は、経済教育学会のホームページよりダウンロードできます。2ページという分量には、図表など一切を含みますのでご注意ください。レイアウトに合わせて作成し、ページ番号、ヘッダー、フッター等はいれなくてください。

4) 報告応募者は年会費を納入してください。新規入会される場合には、報告申込時に年会費 5,000円(65歳以上のシニアの場合 2,500円、学生・院生の場合 2,000円)の納入をお願いします。



●参加をご希望の方(会員)は…

<参加申込> 締め切り：**2015年9月18日(金)まで**にご参加の有無をお知らせください。

申込方法：経済教育学会のホームページ <http://www.ecoedu.jp> から下記の必要事項を入力してください。受付は8月上旬から行ないます。

〔ホームページでの必要事項〕参加者氏名・所属、連絡先(郵便番号、住所、電話番号、ファックス番号、電子メールアドレス)、懇親会の出席・欠席

*なお、昼食につきましては会場付近に飲食店はございません。各自ご用意いただくか、弁当を申し込んでください。

●参加をご希望の方(会員以外)は…

1) 経済教育学会のホームページ <http://www.ecoedu.jp> から、参加者氏名・所属、連絡先(郵便番号、住所、電話番号、ファックス番号、電子メールアドレス)、懇親会の出席・欠席を入力し、2015年9月18日(金)までに送信してください。

2) 会員外の方も参加できます。本学会の魅力を体験された後、入会していただくことを期待します。

問い合わせ

第31回全国大会の件に関しては、以下までお問い合わせください

★

連絡先：〒158-8508 東京都世田谷区深沢 7-1-1 日本体育大学 世田谷キャンパス
日本体育大学・児童スポーツ教育学部 猪瀬 武則研究室内 第31回全国大会実行委員会
Mailto: inose@nittai.ac.jp

経済教育学会 2014 年度（拡大）理事会（2015 年 3 月 29 日）議事録

日時:2015 年 3 月 29 日(日) 9:00-12:00

於: 福井アカデミアホテル

出席者 阿部信太郎、猪瀬武則、大坂洋、角田修一、中里弘穂、中谷武雄、新里泰孝、橋本勝、藤岡惇、山根栄次(以上 10 名)

オブザーバー参加者 浅野忠克、齋藤哲哉、塩田尚樹、炭谷英一、龍世祥、横田数弘(理事 10 名、委任状 10 通、計 20、規約による委任状も含めた理事会定足数 14。)



- 1) 理事会が成立していることが確認され、議長に山根会長を選任し、藤岡理事を議事録作成者に選んだ。
- 2) 会誌編集のこと 担当の猪瀬理事から、予定原稿のうち 7 割が集まっていることが報告された。編集委員のうち、井草理事が所属変更で任地が変わるので、編集活動に支障が出るのが予想されるが、退任ではなく、編集委員の追補で乗り切りたい。経済プロパーから齋藤哲哉会員を理事に任命したうえ、編集委員に追補し、もう一人の追補については、7 月の次回理事会で決めたい旨、提案され、承認した。
- 3) 30 回立命館大会の会計決算が新里会計担当理事より報告され、119,607 円の黒字となったこと、黒字部分を一般会計に組み入れることが承認された。
- 4) 31 回大会の構想が、開催校理事の猪瀬理事から報告され、了承された。
- ①2015 年 9 月 26 日・27 日の両日に、日本体育大学の世田谷キャンパスで開催する方針が提案され、承認された。東京在住の理事・会員を軸にして実行委員会を組織していきたい。テーマについては、「経済と倫理」(仮)という案も含めて検討していきたい。
- ②学会会計から支給される大会開催補助金(25 万円)の使い方、参加者からの資料費の徴収、予稿集の発行の様式などについては、昨年度の経験もふまえて、大会実行委員会に一任したい。
- ③5 月に発行が予定されている次号の「ニューズレター」で、報告希望者を募集していきたい。
- 5) 別紙のとおり、4 名の新入会員の申し込みがあったことが報告された。
- 6) 阿部理事から、学会の国際化を促進する一環として、まずは韓国経済教育学会との連携を深めたい。学会誌の交換、相互理解を深めるために学会誌掲載論文のアブストラクトを英語で作成することなどをめぐって、種々議論。今後一層の検討を行うこととした。
- 7) 本年度の理事選挙の執行について
◇6 月 1 日公示、7 月上旬に開票という段取りで行いたい。
◇選挙管理委員については、阿部、井草、大坂、角田収会員に加えて、塩田尚樹会員を理事に追補したうえで、管理委員に選任することとした。
◇委員長は、メールでの通信なども活用し、管理委員の間で互選する。
- 8) 学会賞の選考については、橋本理事から、①応募数が 1 件と少ないこともあり、応募期間を 4 月末まで延長したうえで選考したいという方針が提案され、種々議論のうえで、これを承認した。

以上(文責 藤岡 惇)

<会員の異動>新入会員(前回理事会以降)

2014-11-13	渡辺伸弘 帝京大学中学高等学校 正会員
2015-02-18	徳丸夏歌 京都大学 正会員
2015-03-04	山崎真嗣 大阪市立大学大学院 学生会員
2015-03-16	中村賢治 基礎経済科学研究所 正会員

春季研究集会のご報告

去る2015年3月28日(土)、福井市地域交流プラザにおいて経済教育学会の春季研究集会が開催され、翌29日(日)には、拡大理事会とワークショップが行われました。今回の研究集会は、北陸3県で毎年開催されております「北陸地域政策研究フォーラム」と共催し、全国から96名の参加者(うち経済教育学会26名)があり、盛況のうちに終えることができましたとお礼申し上げます。

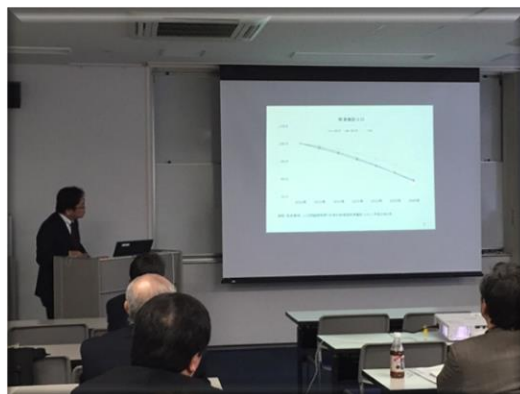
当日は快晴に恵まれ、遠方からの参加者にはまず残雪の白山連峰の景色を楽しんでいただけました。研究集会は第1部の研究報告と第2部のシンポジウムで構成し、研究報告には10件の申込みがあり、テーマにより

3会場に分かれ発表、質疑応答が行われました。経済教育学会会員の報告が多い第1会場では、新里泰孝会員(富山大学)が座長を務め、小柳津英知会員(富山大学)の「機会費用と企業利潤の説明に関する問題点について」、大坂洋会員(富山大学)、炭谷英一会員(神戸市消費生活マスター)の「職業者・消費者のための「意思決定」論」、齋藤哲哉会員(日本大学)の「経済学の求人から見た経済学プログラムの国際化」、瀧波慶信会員(福井商業高等学校)の「体験型課題解決学習の一例」の4報告が行われました。また、第2会場では龍世祥会員(富山大学)の「生活者が測った地域的共通価値」他2報告、第3会場では北島啓嗣会員(福井県立大学)他2名の「福井経営モデル」の分析に向けての試論」他2報告がありました。

今回の研究集会は、経済学分野だけでなく地域産業、地域振興や街づくりなど幅広い分野の報告があり、参加者は興味のある報告を聞くために自由に会場を移動されていました。

第2部のシンポジウムは、本学会の山根栄次会長(三重大学)の基調講演「地域と教育をどのように連携するか」で始まりました。講演は社会科教育の立場から「地域を学ぶのか」「地域で学ぶのか」という切り口で説き起こし、地域産業・企業と教育の連携により若者に地域経済を育てる学力を育成することができないかと結ぶ内容でした。

基調講演に続き井上武史氏(福井県立大学)がコーディネーターを務め、地域と連携した教育活動について武山良三氏(富山大学)、西村貴之氏(金沢大学)、桑原美香氏(福井県立大学)が実践報告を行い、その後の全体討議では会場からも熱心な質問や意見が交わされました。



終了後、懇親会が開かれましたが、本会会員だけでなくあちらこちらで旧知の研究者の再会、交流が見られ、ギターの弾き語りも加わり和やかな会となりました。

翌日は、会場を福井アカデミアホテルに移し拡大理事会とワークショップが行われ、16名が参加されました。拡大理事会では学会誌の編集、学会賞の選考の進捗状況が報告されました(議事録をご参照ください)。時間が押す中、拡大理事会の流れを受けて、「次の全国大会の開催」をテーマに橋本メソッドと呼ばれるワークショップを会員が体験しました。

今回福井県での開催ということで心配いたしましたでしたが、多くの方にご参加いただき感謝いたしております。

(春季研究集会実行委員長 中里弘穂)

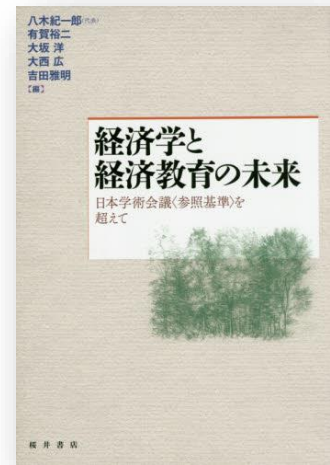
●『経済学と経済教育の未来—日本学術会議〈参照基準〉を超えて』

八木紀一郎(代表) + 有賀裕二・大坂 洋・大西 広・吉田雅明編
桜井書店 3,200 円(税別)

日本学術会議 経済学委員会 経済学分野の参照基準検討分科会(委員長:岩本康志 東京大学大学院教授)が 2013 年 11 月に「大学教育の分野別質保証のための教育課程編成上の参照基準 経済学分野」の原案を作成して以降、その内容に対して、本学会を含む多くの関連学会や教員から批判、懸念が表明された。その結果、原案は修正を施され、最終的に策定された「参照基準」が 2014 年 8 月に公表された(巻末資料 I として載録)。本書は、その原案のどこが、なぜ問題なのかについて、経済学教育を初め進化経済学、経済学史、マルクス経済学、フェミニスト経済学、地域経済学、雇用・労働問題などの視点・立場から論じたものである。

批判の中心は、原案の趣旨が、主流派経済学を標準的アプローチとみなして学士課程の経済学教育を標準化・画一化しようとするものだという点にあり、それに対して、社会経済システムに発生する諸問題の把握・解決には、政治経済学を初めとする多様な経済学のアプローチが有用であることを主張している。このような批判と主張の正当性は、その後の原案の修正によって認められたが、巻末資料 II の岩本康志論稿『「経済学分野の教育課程編成上の参照基準」の審議について』の表 1 でも明らかのように、日本の大学のほとんどの経済学科におけるカリキュラムでは、ミクロ経済学とマクロ経済学が必修とされているか、必修に準じているのが現実である。

今後は、策定された「参照基準」で保証された多様な経済学のアプローチが、その有用性をフルに発揮していない現実(浅田統一郎論稿の注 4 参照)にかんがみて、個々の学生の興味関心、将来の職業選択、社会生活上の必要性などにも応えられる形で、経済学修の望ましいあり方をそれぞれの大学で再検討することが課題であろう。(元・山村学園短期大学 浅野忠克)



●『キム・サンギョ教授のことわざ経済学』

キムサンギョ 著、日本語版監修 カンテダオン 姜泰権、訳者 平川敬介
金商奎 著、日本語版監修 姜泰権、訳者 平川敬介

大阪教育図書株式会社 2,000 円(税別)

経済学の基礎的な理論、原理(とりわけ新古典派経済学のフレーム)を、韓国のことわざや韓国事情を通じて学ぶことのできる著作である。例えば、密接な関係にある諸物のことを韓国では「針の行くところに糸が行く」と言うそうなのだが、このことわざを使って、著者は補完財の説明をする。あるいは「ザルに漆を塗る」(ザルに高価な漆を塗っても無駄であるの意味)ということわざを使って、浪費の問題性を説く。

評者にとって、本著作を読んだの収穫は新古典派的な経済学の基本原理、基礎理論の確認であるとともに、韓国のお国柄を知ることができたことである。キムチチゲの話題、高額な結婚費用、サムスンとソニーのことなど枚挙に暇がない。韓国では「お客様は王様」であると言って思わず頬がゆるんでしまった。韓国文化を知る一冊としても薦めたい。

本書の訳者である平川敬介氏は本学会の会員なのであるが、著者の金商奎、日本語版監修の姜泰権の両氏からも本学会は研究活動や大会発表などの面で多大な貢献をいただいている。その詳細な紹介はここでは割愛するが、この点より本学会の会員にとって本書は関係性の深いものなのである。(東京都立立川高校定時制 越田年彦)



●『図解 使えるマクロ経済学』

菅原晃 著 KADOKAWA/中経出版 1,620 円(税別)

著者の菅原晃氏は、わかりやすく正確な経済学入門書で有名である。現役の高校の教諭であることも話題になっている。その菅原氏の新著を本学会の会員の新刊案内で紹介できることがとてもうれしい。

第1章、第2章の主題は国民経済計算である。基本的な部分の説明は付加価値の説明をして三面等価を示すものである。あえて菅原氏に失礼な書き方をすれば、たぶんほとんどの生徒・学生に悪評の「面白くないアレ」である。しかし、菅原氏はそれを、その面白くないところとられがちなロジックを貿易黒字・赤字、国債発行の問題へ広げてゆくことによって、「面白くないアレ」が現実を見るうえでの重要なツールであることを説得的に示している。

この部分は教員にとってとても有用である。第一に国民所得計算は内容が重要であるのに、生徒・学生に興味をもたせるのがとても困難である。これが面倒で経済学が嫌いになったという声をしばしば聞く。本書はその鬼門を教師が教室でくぐりぬげるためのヒントが満載の本である。

第二に国民所得計算の適当なレベルの書籍が極めて不足していることである。このため経済学部の学生にとってだけではなく、教員が教育に必要な国民所得計算の知識を積み上げることが困難である。本書の前半部分は経済学部の学生や経済学分野に興味をもった高校生だけではなく、ほぼすべての経済学分野を教える教員に役立つ。

後半は現実経済の歴史との関連を重視したマクロ経済学史である。紙幅のために詳しくは書けないが、いくつかの項目は一般的な経済学入門書より記述が極めてコンパクトであるにもかかわらず、読者の興味をかきたてるのに成功している。それは戦後のアメリカのマクロ経済学の発展がアメリカ経済史の反映である側面を正しくとらえて、しっかりしたストーリーのもとで書かれているからだと思う。(富山大学 大坂洋)



●『キャリア形成とコミュニケーションスキル』

中里弘穂 著 三恵社 1,577 円(税別)

本書は、「職業キャリアの形成を構築する過程で必要となる、コミュニケーション能力の考え方を述べたもの」である。若者に向けて、社会で必要とされている能力とじっくり向き合う必要性を説いている。

まず、初職を選択する学生に必要な「選ぶ力」「選ばれる力」について、近年の就職環境データを基に熟考ポイントをまとめている。次に、実際の組織内コミュニケーションについて、ケースごとに丁寧な解説を示している。最後はスキルについて、ビジネスマナーを中心とした実践的な説明となっている。各章には、コミュニケーション能力の必要性を説くだけでなく、ワークシートが準備されている。理論と自身に置き換えて検証するスタイルを併せ持つことで、まとめや振り返りに活用できるよう工夫をしている。

筆者はキャリア理論などが専門の研究者だが、実際にビジネスを想定したコミュニケーション能力の問題点を分析することに力を注ぎ、現場感覚を大切にしている点が一番の特徴である。

(比治山大学 芦谷宏子)



会費納入のお願い

2014年度の年会費を請求いたします。2015年、3月末の納入状況に基づいておりますので、すでに2015年の会費を納入された方はご注意願います。また、特別会員制度により、65歳以上の方は年会費が2,500円となります。該当する方は学会事務局へのメール(office@ecoedu.jp)もしくは、事務委託先 株式会社サラトまでご連絡願います。

下記の振込口座での振込みも可能です。

ゆうちょ銀行 口座番号:00920-3-252875 口座名義:経済教育学会

年会費:正会員 5,000円、学生会員(大学院生を含む)2,000円、65歳以上の会員 2,500円・経済教育学会は日本学術会議協会学術研究団体(詳細は<http://www.sej.go.jp/ja/group/dantai/index.html>)です。学会費は所属先の校費にてお支払い頂ける場合があります。以下引用の規約に基づき、過年度の会費の未納分がある方には早急に会費納入をお願いしております。「5年以上にわたり会費を納めないものは、原則として会員の資格を失う。3年以上の滞納会員については、その旨を伝えて、本会の出版物の配布を保留することとする。(会則5より)」

メールアドレス登録と

学会事務省力化への御協力をお願い

事務局では、学会運営と情報共有の円滑化のため、学会事務局へのメールアドレスの登録をお願いしております。登録されておられない方は学会事務局のメールアドレス office@ecoedu.jp にお知らせ願います。右下のQRコードより、携帯メールから登録可能です。学会にメールアドレスを登録すると、大会、研究集会等の情報、学会ホームページの更新情報などを掲載したメールマガジンが登録したアドレスに届きます。

また、学会事務局への連絡は事務局へのメール(office@ecoedu.jp)、もしくは事務委託先 株式会社サラトへの郵便、FAXにてお願いいたします。サラトへの住所等は、本ニューズレターの発送元欄に掲載しております。



経済教育学会 ニューズレター 第23号

2015年5月20日発行

発行人 経済教育学会 会長 山根栄次

編集人 中里弘穂、あんびるえつこ

発行所 〒930-8555

富山県富山市五福3190 富山大学経済学部
大坂洋研究室

発送元 株式会社サラト経済教育学会担当 大川

〒670-0948 兵庫県姫路市北条宮の町172

FAX: 079-224-7746

電子メール office@ecoedu.jp

学会費送金先 ゆうちょ銀行 振替口座番号 00920-3-252875

印刷所 株式会社 エムディーエス

Tel : 03-5261-9021

<編集後記>

第31回全国大会が開催される日本体育大学・世田谷キャンパスは、東京でも人気の落ち着いたセブな街にあります。

最寄りの桜新町駅は、サザエさんの作者・長谷川町子さんのゆかりの地で、駅を降りるといたるところにサザエさん一家が出没。サザエさん通りには、数々のサザエさんのお土産も！ そんな商店街の喧騒を過ぎると、今度は桜並木のお屋敷街。秋の散策にはもってこいです。桜新町駅から大学までの道のりは、そんなちょっとおしゃれな東京の住宅街を楽しむことができますから、お疲れでなければ駅から徒歩がオススメです。(東京案内人・あんびるえつこ)